

## 令和2年度 第1回みんなで支える森林づくり上小地域会議

**開催日時** 令和2年7月7日（火） 午後2時～午後3時

**開催場所** 上田市森林センター 第1研修室

**出席委員** 藤田健司委員（座長・長和町役場産業振興課長）  
石井公彦委員（信州上小森林組合 常務理事）  
島田直政委員（上小木材青壮年団体連合会長）  
清水理絵委員（霊泉寺温泉 JUKU プロジェクト 代表）  
米津さち子委員（上田商工会議所女性会）  
保母裕美委員（NPO 法人やまぼうし自然学校 事務局長）  
水野美恵委員（上田女子短期大学附属幼稚園 理事・園長）

**事務局** 小山次男林務課長  
芳沢雅行副参事兼課長補佐兼林務係長  
神谷一成課長補佐兼普及林産係長

### 意見を聴いた事項

（1）令和元年度森林づくり県民税活用事業の実績について

ア 事業実績

＜資料1を事務局説明＞

（質問・意見などなし）

イ 森林づくり推進支援金事業の検証及び評価

＜資料2を事務局説明＞

（質問・意見などなし）

（2）令和2年度森林づくり県民税活用事業の計画について

ア 事業計画

＜資料3を事務局説明＞

○保母委員

令和元年度も含めて、防災・減災の事業は実施しているが、他の事業の計画が少ない感じがする。

それぞれにバランスよく、林業従事者育成、地域住民のリーダー的人材育成や子どもたちの環境教育活動を計画していく予定はあるのでしょうか。

○小山課長

事業内容とすると、里山整備事業が金額的には大きくなる。

人材育成等のソフト事業については、要望を見ながら計画を立てている。

要望がたくさん出てくれば、金額的にも増えてくる。

これからも、掘り起こしを進めていく。要望があれば、次年度又は今年度の中でも、若干追加で行っていきたいと思いますので、ぜひ積極的に声をあげていただきたい。

#### ○保母委員

要望ですが、「積極的な民間の事業体に森林税を活用してもらおう」という主旨があったと思います。

行政（県と市町村）は地域森林の情報収集から民間事業体への提案を、民間事業体や地域住民は気軽に要望しやすい仕組みがあれば、より浸透していくのではないのでしょうか。

学校林の整備についてですが、菅平小中学校で継続して行っているが、他の学校でも、先生方の管理で整備することは難しいので、県からお声がけをいただき、事業体や NPO 法人等につなげてほしい。

緑の少年団や植樹祭行事参加校、講師依頼のある学校に要望アンケートを取るなど。

#### ○小山課長

事業体から声が上がりにくいようにとの要望ですが、実際どのようにしたらよいか難しい。

県としては、こちらからの説明が届いているような気がしていますが、相手からすると「聞いていないよ」ということもあると思うので、何かお気づきのところがあれば教えていただき、PR の場やツールなどがあればお教えいただきたい。

学校林の関係では、小中学校の学校林のほうが多いと思うので、市町村とも緊密に連携して、掘り起こしや気が付かなかったところから、お話をしていきたいと思います。

#### ○藤田座長

事業費の県全体に占める当地域の割合が、多いのか少ないのか、薄いのか濃いのか。

昨年は台風災害があり、防災とか減災の事業がこれから大事になってくる。

山林・森林については、特に災害が起きた時には甚大な被害となってしまうので、重要だと思うので、割合について教えていただきたい。

県民税を活用した事業ということだが、皆さんが県民税を払っているなかで、県民税の恩恵を受けているのか、不利益を受けているのか、その辺のバランスのことを教えていただきたい。

#### ○小山課長

なかなか、割合をこうあるべきと決めていくのは難しいところ。

観光地における景観形成のための森林等の整備で予算があるが、高速道路沿いの松枯れのところなど典型的な場所としてイメージしており、ピンポイントでやっていく事業もあるので、全県満遍なくではなく、力を入れるところと、そうでないところというのが出てくる。

先ほどのお話にも通じるが、実際予算の枠はあるので、こういう事業ができるということをしっかり、広くあまねくお伝えすることにより、事業要望を吸い上げるという形で、事業実績を増やしていくというところが、地域振興局とすると必要なのかなと思っている。

それから、里山整備事業で行きますと、国の補助事業もあるが、国の補助事業が使えないところは、森林税活用事業を使うなど、事業を選んでいく必要があるので、税事業が少ないのは一生懸命補助事業を活用しているためだという部分もあると思います。

ただ、昨年の台風19号の関係で、林道が被害を受けたので、思うように現場にたどり着けなくて、実績が伸びなかったところもある。

今年についても、道が開いてなくて、できない部分もある。

この地域が見た目少ないのは、力及ばなくてではなく、台風の影響もあるが、補助金をうまく活用して頑張っているところもある。

数字的には、パーセンテージは大きくないですが、またこれも、事業主体からしっかり要望を上げていただき、事業を進めていきたい。

いろいろな事業を組み合わせてやっているのだから、なるべく有効な、最もベストミックスで、最もいい形での事業執行をやろう、やりたいと考えている。

#### ○島田委員

木の香るくらしづくり事業で、木青連では、木工コンクールを開催させていただいている。年々参加者も増えており、子どもたちへの取組ができてきている。感謝申し上げたい。

予算も倍増されており、民間施設の木質化や県有施設の木質化が入っていることが大きく寄与していると思うが、地球温暖化防止木材利用普及啓発事業が少なくなっている。

子供たちに、木のふれあいをたくさん作る場が増えているが、地球温暖化の影響で、日本も亜熱帯気候に近づいていると感じている。

CO<sub>2</sub>の固定量を認証して、大人が何をしたらいいのかを深く考える場所がないので、民間施設や県有施設を木質化したら、CO<sub>2</sub>がどのくらい固定したかをぜひ明示して、大人の方への発信ができるようになれば、子ども達にもつながっていく、いい環境が作られていくのではないかと思うので、地球温暖化防止木材利用普及啓発事業にたくさんの予算をあてていただいて、普及啓発に微力ながら協力していきたい。

ぜひ、見える化していただきたいと思います。

#### ○小山課長

普及啓発事業は県産材住宅や企業の木質化に対して県がCO<sub>2</sub>固定量を認証するもの。

みなさんには、木の香るくらしづくり事業をお使いいただき、CO<sub>2</sub>固定量の認証を受けていただきたいと思います。

いろいろな事業で木質化を図っていただき、それを県としてCO<sub>2</sub>認証でしっかりPRし

ていきたい。

(3) 長野県森林づくり指針の計画期間の見直しについて

<県資料に基づき事務局説明>

○島田委員

素材生産量80万m<sup>3</sup>の説明として、製材は減少、合板は増加、バイオマスは今後増加見込とあるが、その内訳を教えてください。

生産されている中大径木の多くは、合板とバイオマス需要に回っているのは、需要と供給のバランスが崩れているからと思う。

中大径木が製材業者にきちんと回り、小中径木は、合板、バイオマスに回るのが望ましい形だとは思いますが、製材業者に丸太が集まらないという話も聞いている。

信州Fパワープロジェクトを見越して設定されていると思うが、合わせて説明していただきたい。

○芳沢補佐

80万m<sup>3</sup>の内訳は持ち合わせていないが、「中大径木が製材業者の皆様が届くような仕組みを作っていただいたうえで、目標を設定していただきたい」という内容で、県へ申し上げるということによろしいでしょうか。

○小山課長

これは、県全体の数値の説明であって、この管内の素材生産量の状況は、カラマツは合板人気が高く、高値で取引されている。

また、その需要が非常に大きいので、その需要に引っ張られて、建築用材に回りにくくなっているのは、おっしゃるとおりだと思う。

その辺は、気を配りながら、単純に合板用に伐って出荷するのではなく、建築用材の需要にも応えていくことが必要なので、関係者にもお話をしていかなければならないと思っている。

説明は、県全体の話なので、地元の製材業者さんが頑張っていることは承知している。

物がなかなか、入ってこない現状もあることは、承知しており、災害・コロナで需要も減退している状況もある。

切って出したくても、出す先がない状況と建築現場が動いていないので、木を出す方は厳しい状況となっている。

需要が出てきたときに、供給が合わせていけるように、目を配って、情報の収集。交換。共有を図っていきたい。

○島田委員

合板がすべて悪いというわけではないが、製材業者も欲しい木材が使えなくなってくると需要が見込めないで、「やめようか」ということになる。

建築関係では野地合板、床合板の需要が絶対的に使われている。

でも、少しずつ、実は見直されてきていて、合板はボンドを使っているのに雨に濡れると厳しいものがあるので、合板を見直す建築業者もだいぶ増えている。

いろいろな需給のバランスもあると思うが、ぜひその辺もお考えいただければと思います。

## その他

### ○水野委員

私たちの園には、裏山があって、いつも子供たちが遊んでいます。

今日のように雨が降った後の山の中がとてもいい香りがします。

木の香り、緑の香り、土の香りがして、そこで遊ぶ子供たちを見ると本当に生き活きとしています。

コンクリートの上とか、狭い空間で遊んでいる子ども達と違って、やっぱり『自然が、子供を育てている』と実感します。

ですから、森林は、豊かで安全であってほしいと願っています。

子供たちは、森林の中で、いろいろな遊びをします。

長野県中、森だらけですので、どこにどんな遊び場があるのか、どんな宝があるのか、私自身もまだまだわからないので、広報によって、そうゆうことが少しでも広がって、知ることが出来れば、今大勢の方がコロナ対策で、広いところに行きたいとか、気分転換したいという気持ちを抱えていると思うので、このタイミングで空気のきれいな森の中にみんなを誘ってあげたいと思っています。

私たちの園は、「やまほいく」をしています。上田市の中では2園だけです。

今後も森を作ったり、遊んだり、木を活かして遊ぶものを作ったり、生活に活かしたりしていきたいと思っています。本当に楽しみです。子供たちの目の色や輝きが変わるので、ぜひ森づくりをやっていっていただきたいですね。

資料の中に「故郷」という言葉が多く書かれていました。長野県といえば山や緑です。

子どもたちの目にも、心にも、故郷は「山」「緑」ということを刻むのは、体験が一番。

いろいろな楽しい体験や厳しい体験が必要だと思います。

木製のベンチやテーブルは、周りの景観にマッチしてとてもよいと思います。

プラスチックのベンチやテーブルでは、見栄えが悪い。

私たちの園舎は、木造ですが、木造にしたら、子どもたちに集中力ができて、以前に増してじっくり遊んでいる気がします。

何かやっても、とてもいい感じになるのです。

保護者の方に、園舎の感想を聞いたところ、「初めて入ったような気がしない。」とっていました。懐かしいというか、やはり人間は自然なので、中にいると気持ちも安らぐのでしょう。できるだけ木に囲まれた生活が送れるように、是非みんなで森林づくりを支えていきたいと思います。

